

長野市の

歴史

文化を語る

地域から
学ぼう！



9つのストーリー



長野市観光文化部文化財課

長野市の5つの歴史文化の特性

長野市は、長野盆地とそれを取り囲む山々、さらに大小の河川によって形づくられ、標高差2,000m以上という地形の中に多様な自然環境が広がっています。また歴史的には善光寺の門前町をはじめ、松代、戸隠といった歴史や性格の異なる地域がつながりながら発展してきました。このような長野市の歴史や文化にまつわる特性として、次の5つを挙げるすることができます。

1 激動の大地がもたらす恵みと災い

太古の昔、海だった長野市域は、その後の激しい地殻変動によって長野盆地と東西の山地からなる地域となりました。

むじなごうろ 貉郷呂山の石切場 ▶



2 人々が交わる地「長野」

長野市は長野県と新潟県との境界に当たる位置にあり、古くから内陸の山間地と日本海側をつなぐ重要な場所でした。

◀ 善光寺宿のにぎわい『善光寺道名所図会』

3 信仰が息づくまち「長野」

長野市には、社会の様々な人々に開かれた霊場として信仰を集めてきた善光寺や、修験の聖地として全国に名が知られた戸隠など、著名な宗教的拠点が存在しています。

戸隠山から出されたお札 ▶



▲ 旧長野県庁舎

4 政治経済の中心「長野」

古墳時代にヤマト政権との結びつきを示す前方後円墳が存在し、善光寺の周辺には後町（後庁）という官庁跡を示す地名が残るなど、長野市域は古くから政治の拠点でした。

5 「長野」に生きる人々の暮らしと文化

長野市域では山地・盆地で育まれた多様な生活文化を背景として、さまざまな行事・祭礼・芸能が伝えられています。

篠ノ井の人形道祖神 ▶



5つの歴史文化の特性から生まれた

9つのストーリー

【長野市の歴史文化の特性】

【関連文化財群】

① 大地の記憶
海だった長野

② 「信濃国のはじまり」
のはじまり

③ 川中島の戦いと
伝承

④ 松代城下町に伝わる
武家文化

⑤ 善光寺・門前町に息づく
歴史文化と祭礼

特性 ①
激動の大地が
もたらす
恵みと災い

特性 ②
人々が交わる地
「長野」

特性 ③
信仰が
息づくまち
「長野」

特性 ④
政治経済の中心
「長野」

特性 ⑤
「長野」に
生きる人々の
暮らしと文化



⑥ 自然と信仰が紡ぐ
戸隠の歴史文化

⑦ 里山の恵みを活かした
暮らしと粉食

⑧ 川と共に生きる
一千曲川水系と暮らし

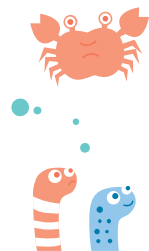
⑨ 長野市に伝わる
多様な祭礼・行事

以上の5つの歴史文化の特性を基にして、長野市のことをもっと深く知るための9つのストーリーを作りました。

これから紹介する、市内の文化財が織りなす9つのストーリーをご覧ください、ぜひ現地に足を運んでみてください。



Story 1



大地の記憶 海だった長野

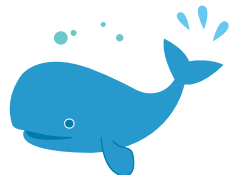


長 野市は、かつて海の底だった場所が地殻変動によって隆起し、現在の姿へと変化した地域です。市の中心には長野盆地が広がり、その周囲を自然豊かな山々が囲んでいます。

西部の山間地には、雄大な峡谷と美しく積み重なった地層が多く見られます。そしてその地層からは、クジラやセイウチ、貝などの海の生き物の化石が多数発見されています。これらの化石は、長野市域がかつて海の底であったことを示し、県や市の天然記念物などに指定され、大地の歴史を伝える文化財として保存されています。

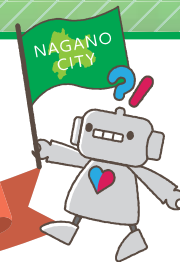
盆地の周辺には、善光寺表参道の石畳や市内の石垣などに利用されている石材の採石跡地があります。また日本で最初に石油の商業採掘が始まった浅川には、石油井戸（油井）が残されています。大地の恵みを利用してきた人々の営みも、文化財として大切に保存されています。

各地の文化財を巡りながら、長野市が歩んできた壮大な大地の物語を感じてください。



Story 1 大地の記憶 海だった長野

文化財を見に行こう！



① 大柳及び井上の枕状溶岩 【県指定天然記念物】

約1,600万年前に長野市域一帯が海底だったことを示す文化財です。海底火山から噴出した溶岩が水中で急速に冷やされ、枕を積み重ねたような独特な形をした岩塊になりました。道路沿いで間近に観察することができ、この場所がかつて海底だったことを実感できます。



② 裾花凝灰岩

約700万年前の海底火山の噴火で生じた火山灰や軽石が海底に堆積してできた白い地層です。長野盆地の西縁部に広く分布し、市街地からも見るができます。特に県庁西側の裾花川沿いでは間近で観察できます。



③ 奥裾花峡谷【県指定名勝】

裾花川が約300万年前の地層を侵食して作った全長約5km、高さ100mの壮大な峡谷です。日影向斜やケスタ地形、生物の活動の跡が化石化した生痕化石など様々な地質現象を観察できます。春の新緑や秋の紅葉も美しく、「日本の自然百選」にも選ばれています。



Story 1 大地の記憶 海だった長野

④ 千畳敷岩【市指定天然記念物】

幅80m、奥行き150mの砂岩でできた一枚岩で、かつての海底面が広く露出した珍しい岩塊です。その名のとおり、千畳もの畳が敷けるほどに思われる雄大な姿は圧巻です。



⑤ 日影向斜の向斜軸【市指定天然記念物】

写真中央やや左を境に、画面奥の左右の地層の傾きが逆なのがわかります。ここでは、地層に左右から圧縮の力が加わり、地層が下向きにたわんでいます。これを「向斜構造」と呼びますが、一つの風景の中でこの現象を観察できるのは珍しいことです。



⑥ 山穂刈のクジラ化石【県指定天然記念物】

絶滅した「シンシュウセミクジラ」の化石です。体長は約12mと推定されています。かつての長野市域周辺に、たくさんの生き物が息をする豊かな海が広がっていたことを示しています。信州新町化石博物館の常設展で見ることができます。

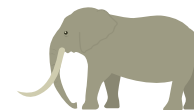


シンシュウ
セミクジラの
頭骨化石

Story 1 大地の記憶 海だった長野

⑦ 戸隠川下のシンシュウゾウ化石【県指定天然記念物】

約300万年前の地層から発見された、左右4本の歯が残るゾウの下あごの化石です。シンシュウゾウ（ミエゾウ）は牙の先からしっぽの先まで約8m、肩の高さが約4mと推定されている巨大な絶滅したゾウの一種です。中条と鬼無里でもシンシュウゾウ（ミエゾウ）の化石の一部が見つかっています。戸隠地質化石博物館の常設展で見ることができます。



▲ シンシュウゾウ(ミエゾウ)の
下あごの化石



⑧ 浅川の油井

日本で最初の石油の商業生産は長野で行われました。浅川真光寺周辺の地下には、約1000万年前の海底に堆積した浅川泥岩層と呼ばれる地層が分布しています。浅川泥岩層は現在でも石油生産が行われている新潟県などの石油を含む地層と同じ頃に堆積した地層です。現在、浅川ループライン沿いに石油井戸とポンプが保存され、長野市の石油産業の歴史を感じることができます。

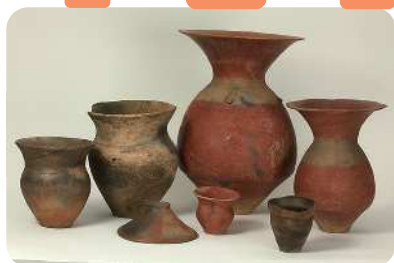


Story 2

「信濃国のはじまり」 のはじまり



▲ 円形周溝墓（檀田遺跡）



▲ 赤い土器（国鉄貨物基地遺跡）

弥生時代「赤い土器のクニ」から 古墳時代「シナノのクニ」へ

弥生時代に伝わった稲作は、篠ノ井（石川条里遺跡）や若穂（川田条里遺跡）など現在まで続く水田の原風景を形づくり、「箱清水式」と呼ばれる赤く塗った土器に象徴される独自の文化圏を出現させました。共通する器の使用に加えて、鉄や銅のブレスレット、鹿角製の柄を持つ短剣、丸い墓への単独埋葬など、一大「文化圏」を形成し、「赤い土器のクニ」と呼ばれています。

Story 2 「信濃国のはじまり」のはじまり

古墳時代になると水田を望む山の上に川柳將軍塚古墳（篠ノ井）や土口將軍塚古墳（松代）、和田東山古墳群（若穂）などの大型前方後円墳が築造され、一般民衆とはかけ離れた「王」が登場します。弥生時代の「赤い土器のクニ」は、倭王権とのつながりを背景に、「王」が治めた「シナノのクニ」へと大きく形を変えていきます。



▲ 川柳將軍塚古墳出土品【県・市指定文化財】



Story 2 「信濃国のはじまり」のはじまり

▼ 大室古墳群【国指定史跡】 遠景



▲ 赤色は史跡指定範囲

独自の積石塚古墳文化

古墳時代の後半期になると、王墓である大型の前方後円墳の築造地域は下伊那地域へと移り、長野地域では築造されなくなってしまう。千曲川流域を中心とした「シナノのクニ」が南に拡大し、古代「信濃国」の範囲が明らかになります。

一方、前方後円墳が造られなくなった長野地域では、大室古墳群（松代）に代表される積石塚古墳が築造され始めます。土を盛って造

▲ エントランスゾーン

Story 2 「信濃国のはじまり」のはじまり

られる一般的な古墳と異なる積石塚は、菅間王塚古墳・竹原笹塚古墳・桑根井空塚古墳（いずれも松代）と古墳時代後半期を通じて築造され続け、千曲川右岸地域を中心に日本列島でも他に例をみない独自の古墳文化を形成しました。

この一連の動きは、馬事文化の導入に伴って新たな交通路となる「ヤマのミチ」が整備されたことと深くかわり、人・物・情報の動きが刷新された新しい「経済圏」の出現により「信濃国」の骨格が形作られたことを雄弁に物語っています。



▲ 大室 168 号墳



▲ 大室 244 号墳



合掌形石室（大室 168 号墳）



▲ 横穴式石室（大室 244 号墳）